

## 52. 接続法 (1)

### I. 接続法の本質とその形態

#### 「法」(Modus) の概念

話者があつてからを述べる時、文の内容に対する話者の心的態度の相違、つまりどういふ気持ちで相手に話しているかということが、動詞の語形変化に現われたものを法といいます。

### II. 法の種類

#### 1. 直接法(あるいは直説法)Indikativ

直接法(直説法)とは、あることがらを事実として述べる様式、つまりものの言い方をいいます。

Du hast ein Kind.

「君は子供がひとりいます」

#### 2. 命令法 Imperativ

命令法とは、話者の意志を命令、禁止などによつて述べる様式をいいます。

Hab ein Kind!

「君は子供をひとり持ちなさい」

#### 3. 接続法 Konjunktiv

接続法とは、あることがらを事実としてではなく、假定、想像、願望、人の言ったこととして、要するに話者の心の中で考えられたこととして述べる様式をいいます。

さらに、接続法は以下の3通りの使い方があります。

a. Du habest ein Kind.

(Er habe ein Kind.)

「君が子供をひとり持つように」

「彼が子供をひとり持つように」

この文は話者が相手あるいは第三者に向かつてなにかを要求しているために「要求話法」といわれます。イギリスの国歌の始まりは *God save the Queen!* といいますが、主語が3人称であるにもかかわらず動詞に *-s* がついていません。これも直説法ではなく、神に向かつて女王を守ってくれるように、と求めている「要求話法」で、しばしば3人称に対して用いられます。

b. Er sagt: "Du hast ein Kind."

「『君は子供をひとり持っている』と彼は言っている」

この場合、話者である *er* の言葉をそのまま引用したもので直接引用文(直接話法)です。

Er sagt, du habest (hättest) ein Kind.

「君は子供をひとり持っている、と彼は言っている」

これは第三者が彼の言葉を聞いてこれを間接に引用して単に伝達しているにすぎず、彼の言葉は事実かどうかはわからないけれどもとにかく彼の言葉を取り次いでいるだけなのです。こうした言い方を「間接話法」といいます。

c. Wenn du ein Kind hättest, so wärest du glücklich.

「君が子供をひとり持っていれば、君は幸福なのになあ」

この文は「もし君が…であれば」という仮定をして、しかし現実にはそうではないことを結論づけているため、「非現実話法」あるいは「約束話法」といいます。

以上の接続法の文例をみると共通点があります。それは接続をあらわす「と」という接続助詞がどれにでも – 現れていないまでも、言外の含みとして – 存在している、ということです。

a.の要求話法では

ich wünsche, ... 「私は…と望む」という文章があるはずです。

b.の間接話法でははっきりと

er sagt, ... 「彼は…と言っている」という文章があります。

c.の非現実話法では前半部分に

ich nehme an, ... 「私は…と仮定する」という文章を補い、さらに後半部分にも

ich glaube, ... 「私は…と思う」という文章があると考えられます。

即ち、接続法とは何らかの意味で接続の働きを持つ定動詞の形である、と定義することができます。